

教育研究業績書

令和7年9月8日現在 氏名 金武 雅美		
教育上の能力に関する事項		
事項	年 月	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書・教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価	令和4年9月 令和7年7月	立命館アジア太平洋大学 教員アセスメント（2021年度活動実績アセスメント）教育分野にて受賞（公表日：2022年9月下旬） 佐賀女子短期大学 令和6年度（2024年度）授業表彰最優秀授業賞受賞
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他	平成29年11月	学内の日本語教師に対するFDの実施。学習支援ツール「Fingerboard」の活用事例の紹介と実技講習会。
職務上の実績に関する事項		
事項	年 月	概要
1 資格、免許	平成11年10月 平成12年7月 平成15年4月 平成21年8月 平成25年12月 令和2年4月 令和2年4月 令和3年3月 令和4年8月～ 令和5年1月 令和6年10～ 令和7年2月 令和7年4月	2級建築士免許 合格 東京商工会議所認定 福祉住環境コーディネーター2級 合格 社団法人インテリア産業協会認定 インテリアコーディネーター 合格 ヒューマンアカデミー日本語教師養成講座420時間以上修了 日本語教育能力検定試験 合格 日本eラーニンコンソシアム ラーニングデザイナー 取得 日本eラーニンコンソシアム eLPベーシック 取得 日本語教育研究所 令和2年度文化庁委託事業「日本語教育人材の 研修プログラム普及事業」 修了 日本語教育学会 令和4年度「人材、知財、ネットワークを活かした中堅日本語教師のための研修プログラム中堅研修コース」修了 令和6年度 文科省 現職日本語教師研修プログラム普及事業「難民等対象の日本語教師初任者研修」修了 登録日本語教員試験 合格
2 学校現場等での実務経験	平成22年1月～ 平成22年3月 平成22年9月～ 平成24年7月 平成23年7月	さくら日本語学校（ネパール、カトマンズ） 成人学習者に対する日本語指導、『みんなの日本語』使用、留学前の学習者に対するサポート等を行う 担当科目：初級・初中級クラス 担当時間数：15コマ/週（学生数5～10名程度） 日露青年交流センター日本語教師派遣事業 アムール国立人文教育大学言語学部日本語科（ロシア、コムソモリスク・ナ・アムール） 担当科目：総合日本語、会話及び日本文化、地域日本語クラブの設立 担当時間数：6コマ/週（学生数5～10名程度） インクルード言語学校 日本語科（上記 大学内市民講座 大学と並

	～ 平成24年7月 平成24年11月 ～ 平成25年6月 平成25年10月 ～ 平成30年9月 平成30年3月 平成30年10月 ～ 令和4年9月 令和4年4月 ～ 令和4年8月 令和5年9月～ 現在	行して勤務) 担当科目：初級、中級クラス 担当時間数：3コマ/週（学生数5名程度） 平成24年度EPAに基づくフィリピン看護師介護福祉士候補者に対する日本語予備教育事業（フィリピン、マニラ） 担当科目：導入、基本、応用練習、会話、漢字、ケア基礎、日本事情 担当時間数：13コマ/週（学生数20名程度） 立命館アジア太平洋大学 言語教育センター 非常勤講師 担当科目：日本語初級、日本語中級、日本語中上級、学期前オリエンテーション（ひらがなカタカナ習得） 担当時間数：12コマ/週（3クラス、学生数各20～24名程度） 『日本語5つのとびら』使用、小テスト・試験問題作成、採点、短文完成シート等ワークシート作成、スケジュール作成など 国際交流基金第18回日本語パートナーズ派遣前研修講師（大分） 担当：日本語チームティーチング研修 担当研修者数：7名、チームティーチングの模擬授業の指導、アドバイスなどを行う 立命館アジア太平洋大学 言語教育センター 嘱託講師 担当科目：日本語初級、日本語中級、日本語中上級、（オフィスアワー） 担当時間数：10コマ/週（3クラス、学生数各20～24名程度） 『日本語5つのとびら』使用、小テスト・試験問題作成、採点、短文完成シート等ワークシート作成、スケジュール作成、試験・活動班の取りまとめなど 佐賀女子短期大学 非常勤講師 担当科目：日本語検定講座Ⅰ（N2） 担当時間数：1コマ/週（1クラス 13名） 『新完全マスター読解日本語能力試験N2』『新完全マスター文法日本語能力試験N2』などを使用、小テスト、模擬テスト作成実施、発表活動、スケジュール作成など 佐賀女子短期大学 日本語別科長兼専任講師 ・担当科目（本科）：日本語検定講座Ⅰ（N1）、日本語検定講座Ⅱ（N2）、日本語検定講座Ⅲ（N1,N2,N3）、ビジネス日本語、日本語表現（応用）、日本語Ⅰ,Ⅱ、日本語（漢字・語い）、日本語（会話表現）、日本語（文法）、日本語（読解・作文）、リベラルアーツ、多文化共生の理解、卒業研究 ・担当科目（日本語別科）：日本語（総合）Ⅰ・2、日本語（漢字語彙N2,N3）、日本語（会話） 担当時間数：13コマ/週（1クラス5名～30名程度） 小テスト、模擬試験作成、活動発表指導、シラバス、スケジュール作成、日本語別科日本語コース運営など
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

担当授業科目に関する研究業績等						
担当授業 科目	著書、学術論 文等の名称	単著 共著	発行 年月	出版社又 は発行雑 誌等の名 称	執筆ページ数 (総ページ数)	概 要 (共著の場合は全員の著者名を記載) (共著及び執筆ページ数が抽出できない場合 は執筆箇所を詳述)
	(研究論文) 初級日本語学 習者に向けた 「まち歩き」 活動の試み－ 地域との関わ りを通して学 ぶ言語学習活 動の可能性－	共	令和4年3月	APU 言 語研究 論叢	抽 出 不 可：3名 で全体の 修正をし つつ執筆 したため (14)	概要：著者3名が企画運営した初級 日本語を学習する留学生を対象とし た「まち歩き」活動が、留学生に与 えた影響を調査・考察したものであ る。この活動が教室外での日本語使 用及び地域との繋がりとの契機とな り、主体的・能動的な学習活動を促 進・支援するための活動であるのか をアンケートの回答を元に分析を行 った。その結果、本活動が、学習意 欲を刺激するとともに、地域社会に 対する興味と関心を導く可能性が示 された。 著者：増田寛次、高松智恵美、金武 雅美（計3名）
	(研究論文) 日本語科目と韓 国語科目の対面 交流授業の可能 性	共	令和5年9月	日本韓 国研究	7 (14)	日本語科目を受講する韓国語母語話 者と韓国語科目を受講する日本語母 語話者の交流授業を対面で実施した 試みについて述べたものである。2 回の交流授業から見える交流授業の 可能性と課題について述べている。 著者：チェウンギョン、金武雅美 (計2名)
	(ポスター発 表) 海外ルーツ児童 の支援を行う大 学生(留学生) ボランティア養 成プログラムの 現状分析とeラー ニング教材の提 案	共	平成30年9月 28日	日本教 育工学 会		大会名：日本教育工学会第34回全 国大会 場所：東北大学（ 概要：海外ルーツ児童生徒の散在地 域における現状把握とそれを支援す るボランティア学生の現状分析を行 い、ボランティア学生を育成するた めの支援ツールの提案を行った 発表者：金武雅美 指導教員：松葉龍一、鈴木克明、平 岡斉士（熊本大学大学院） (計4名)
	(研究発表) 海外ルーツ児童 の支援を行う日 本語支援員養成 プログラムの現 状分析とeラー ニング教材の提 案	共	平成31年3月 9日	教育シ ステム 情報学 会		大会名：教育システム情報学会 学 生研究発表会2018九州会場 場所：ホルトホール大分 概要：海外ルーツ児童生徒の散在地 域における現状把握とそれを支援す るボランティアの現状分析を行い、 ボランティアを育成するための支援 ツールの提案を行った。GBS理論 を元にシナリオ型教材を作成するこ とを提案した。修士論文作成に向け ての研究発表。

					発表者：金武雅美 指導教員：松葉龍一、鈴木克明、平岡齊士（熊本大学大学院） （計4名）
	（研究発表、ラウンドテーブル・ディスカッション） ディスカッションタイトル：「日ロ交流の今と未来に、日本語教育は何ができるのか」 コムソモリスク・ナ・アムーレにおける日本語教師の意識の変容	共	平成 29 年 9 月 10 日	多文化関係学会	大会名：多文化関係学会2017年度第16回年次大会 場所：藤女子大学（北海道札幌市） 概要：日露青年交流センター日本語教師派遣事業において、コムソモリスク・ナ・アムーレの国立大学へ派遣された日本語教師としての意識の変容について述べた。派遣前はロシアという国や国民に対しステレオタイプともいえる排他主義的な印象を少なからず持っていたが、約2年間の日本語教師としての活動や地域での生活を通し、ロシアに対し非常に好意的な方向へ変容した。実際に、文化に触れ、人と接し、考えを共有することが異文化理解の促進に繋がると感じた。 発表者：金武雅美、松井一美、竹口智之、門井美奈子（計4名）
	（研究発表） 日本語初級後半学習者のためのあいづち練習教材 'AIZUCHI' Practice Materials for the Learners of Japanese Language in Upper Beginners Level	共	令和 4 年 10 月 8 日、9 日	マレーシア日本語教育国際研究会	大会名：第19回マレーシア日本語教育国際研究発表会 場所：オンライン 概要：立命館アジア太平洋大学の授業のために作成した「あいづち」練習教材を本大会の「アイデア広場」にて発表。日本語学習者にとって日本語のあいづちの使い分けは難しく、教科書内でも取り立てて指導するものではない。しかし、日本人とのコミュニケーションを行ううえで、あいづちが正しく使えなければ誤解が生じることもある。本教材では、初級後半の学生を対象に「そうですか」「そうですね」のイントネーションでの意味の違いを理解し、使用場面を与え、どのようなあいづちが適しているかを考える教材となっている。 本大会では、「これ、Inspiringで賞」を受賞。 発表者：金武雅美、隈井正三、高尾まり子、山門健二（計4名）
	（研究発表） 日本語科目と韓国語科目の対面交流授業に関する実践報告	共	令和 4 年 12 月 18 日	日本韓国研究会	大会名：第回日本韓国研究会 場所：オンライン 概要：佐賀女子短期大学の日本語クラスと韓国語クラスの交流授業に関する実践報告である。クラスの共通

					点としては、コミュニケーションや会話、表現を重視しているクラスであるという点である。2回の対面の交流授業を通して、授業内での学生の様子、授業後のアンケートから見る学生の態度変容などについて報告を行った。 発表者：金武雅美：チェウンギョン（計2名）
	（研究発表） 多言語演劇の手法による多文化理解を軸とした言語学習カリキュラム開発研究	共	令和 6 年 2 月 24 日	グローバル人材育成教育学会	大会名：グローバル人材育成教育学会第11回全国大会 場所：オンライン 概要：言語（英語・韓国語・日本語・ミャンマー語）演劇の手法を活用した授業実践を通じて、多文化理解を軸とした多言語学習のカリキュラムをデザインすることを目的とした。授業実践の内容、事前と事後アンケート、リアクションペーパーを基に、学生に及ぼす効果検証の観点から分析した。 発表者：青柳達也、張允馨、丁仁京、金武雅美（計4名）
	（研究発表） 多言語演劇の手法を活用した多文化理解と言語学習カリキュラムの実践研究（2）	共	令和 7 年 2 月 9 日	グローバル人材育成教育学会	大会名：グローバル人材育成教育学会第12回全国大会 場所：中村学園 概要：令和 6 年度後期に行った本学の「みらい学」の授業の実践報告。「金の斧、銀の斧」を題材として、前回よりもより自由度を与え、台本を作成し、演劇を通じた多文化理解と言語学習を目指した。 発表者：青柳達也、張允馨、丁仁京、金武雅美（計4名）
	（研究論文） 多言語演劇の手法を活用した多文化理解と言語学習カリキュラムの実践研究	共	令和 7 年 3 月 31 日	グローバル人材育成教育学会	2 (10) グローバル人材育成教育研究 第 12 巻第 2 号(通巻第 23 号) 概要：令和4年度から行っている本学の「地域みらい学」の授業の実践報告（令和5年度分）を論文としてまとめた。1年目の取り組みの反省点を2年目の取り組みでは改善し、多言語演劇の手法を通じた言語習得の機会が学生の学習意欲や自己成長に繋がることが示唆された。同時に新たな改善点も明らかとなった。 発表者：青柳達也、張允馨、丁仁京、金武雅美（計4名） 著者：青柳達也、張允馨、丁仁京、金武雅美（計4名）